

# 第59回シェイクスピア学会

2021年10月9日(土)／10日(日)

オンライン開催

※紙媒体のプログラムに一部誤りがありました。10月10日(日)

「特別講演」終了時間は「11:30」です。お詫び申し上げます。

—10月9日(土)—

13:00 開会

14:00-17:05 研究発表

第1室

- 『から騒ぎ』の言語と劇構造  
福士 航(東北学院大学教授)
- “In russet yeas and honest kersey noes”  
—『恋の骨折り損』における法と愛  
団野 恵美子(大阪芸術大学教授)
- 二つの材源をつなぐ復讐悲劇  
—ジョン・バンクcroft『ヘンリー二世』を中心にみる  
愛妾表象の需要と変化  
國崎 倫(九州国際大学准教授)
- 『チェスゲーム』の政治性とエリザベス・ステュアート  
田村 真弓(大東文化大学准教授)

第2室

- 狂気のメタモルフォーシス  
—シェイクスピア作品におけるエクソシズムの表象とその  
娛樂性  
松岡 浩史(熊本大学准教授)
- 初期近代イギリスの文学と演劇における*Ars Moriendi*の  
痕跡  
宮本 正秀(大東文化大学教授)
- The Winter's Tale* の“faith”に見られる、盲信から  
正しい確信への回帰  
富田 岳(立教大学大学院博士後期課程)
- Denmark in the Mind's Eye: Visualizing the March  
of Fortinbras in *Hamlet*  
Thomas Dabbs(青山学院大学教授)

第3室

- ファースト・フォリオ以前の出版文化における“M. William  
Shak-speare”の誕生  
五十嵐 博久(東洋大学教授)
- エドワード六世時代の英国とイタリアの邂逅  
—着目すべき1冊  
富田 爽子(拓殖大学名誉教授)
- 少年を演じる少年俳優  
—少年に投影される欲望と嫌悪  
鈴木 悠理(東京工業大学大学院博士後期課程)
- 文献から探るルネサンス期ロンドンのワインとタヴァーン事情  
土井 雅之(文教大学准教授)

第4室

- 山岸荷葉『沙翁悲劇はむれつと』(1907)に見るオフィーリア  
の狂気  
川野 真樹子(明治大学助手)
- Shōyō's Realism and Shakespeare's Real Women:  
The Case of Isabella  
Daniel Gallimore(関西学院大学教授)
- 「私たちはしよせんキャリバン」なのか  
—『絶園のテンベスト』におけるシェイクスピアの利用  
松山 響子(駒沢女子大学准教授)
- ロウ版全集の口絵の差し替えをめぐる  
佐々木 和貴(秋田大学特別教授)

—10月10日(日)—

10:00-11:30 特別講演

シェイクスピア時代のシビュラ図像集について

講師: 専修大学教授 伊藤 博明

13:00-16:00 セミナー

セミナー1

シェイクスピアとファン・カルチャー

コーディネイター: 中野 春夫(学習院大学教授)  
吉原 ゆかり(筑波大学准教授)  
メンバー: 石塚 倫子(東京家政大学教授)  
松田 幸子(高崎健康福祉大学准教授)  
吉田 季実子(法政大学非常勤講師)

セミナー2

初期近代イングランドをクィアに読む・観る・考える

コーディネイター: 松尾 江津子(鈴鹿工業高等専門学校准教授)  
メンバー: 神山 さふみ(学習院大学大学院博士後期  
課程)  
木村 明日香(中央大学助教)  
坂本 晃平(京都大学大学院博士後期課程)  
杉浦 裕子(甲南大学准教授)  
高根 広大(志學館大学講師)  
コメンテーター: 本橋 哲也(東京経済大学教授)

セミナー3

『マクベス』を読む

コーディネイター: 栗山 智成(京都大学教授)  
メンバー: 倉田 紘頭(マセキ芸能社役者・芸人)  
田邊 裕子(東京大学大学院博士後期課程)  
中谷 森(京都大学こころの未来研究センター  
特定研究員)  
藤井 万里子(聖心女子大学大学院博士後期  
課程)  
ゲスト・コメンテーター: Paul Prescott (Professor, University  
of California, Merced)

主催: 日本シェイクスピア協会 <http://www.s-sj.org/>

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学(超域)河合祥一郎研究室内

Fax 03-5454-4813 e-mail [info@s-sj.org](mailto:info@s-sj.org)